

## 母体年齢別の最適な移植胚数の検討 ～41 歳以上では 2 個胚移植でも多胎のリスクは低い～

北山静香、佃 笑美、佐藤 学、赤松芳恵、橋本 周、岩端秀之、姫野隆雄、井上朋子、  
伊藤啓二郎、中岡義晴、森本義晴  
医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

【目的】近年、多胎妊娠予防のため単一胚移植が積極的に行われている。しかし、母体年齢が上がると妊娠率が低下するため、2 個胚移植を実施し妊娠率の向上を図っている。そこで、年齢に合った移植最適個数を後方視的に検討した。

【対象と方法】2007 年～2012 年に当院において胚移植を実施した 9386 周期において 35 歳以下、36-39 歳、40 歳以上の 3 群で単一分割期胚移植(以下 SET 群)、単一胚盤胞期胚移植(以下 SBT 群)、2 個分割期胚移植(以下 DET 群)、2 個胚盤胞期胚移植(以下 DBT 群)別に臨床的妊娠率を比較した。また 2 個胚移植における双胎率をそれぞれ比較した。

【結果】分割期胚移植における妊娠率は、35 歳以下の群で SET 群 35.0% vs. DET 群 41.1%、36-39 歳の群でそれぞれ 25.8% vs. 38.6%、40 歳以上の群でそれぞれ 12.9% vs. 17.0%と DET で有意に妊娠率が高かった( $p<0.05$ )。DET 群の双胎率は、35 歳以下の群 29.1% vs. 36-39 歳の群 16.5% vs. 40 歳以上の群 9.4%と年齢が上がるにつれ有意に双胎率が下がった( $p<0.05$ )。DET 群において 40 歳以上で双胎妊娠したうち 72.7%が 40 歳で、その双胎率は 23.2%で 36-39 歳と差はなかった。41 歳以上では双胎率は 3.6%(6/166 症例)で、双胎出産に至るケースは認められなかった。また、胚盤胞期胚移植では各年齢群において妊娠率、双胎率に差は見られなかった。

【考察】すべての年齢群において SET 群より DET 群の方が有意に妊娠率が高かったが、40 歳以下では双胎率が高くなるため、単一胚移植が望ましいと考えられる。しかし、41 歳以上では双胎出産に至る可能性は低く、初回治療より 2 個胚移植を選択しても良いと思われる。